

△新刊紹介▽

野地潤家先生著

『国語科授業論』

野地潤家先生は、さきに、「国語科授業力の問題」(『国語教育原論』、昭48・2・10、共文社刊)というご論稿で、「国語科授業力」を、授業構想力・国語教材把握力・国語学力把握力・国語学習深化力としてとらえられ、これらの向上をはかることが国語科授業創造の拠点となることを示された。そのようなお考えを、さらに、「国語科授業論」として体系化なされたのが、本書である。

すぐれた国語科授業をどのようにして創造するかは、国語科教育ならびに研究の、もっとも切実な課題の一つである。

それにこたえるために、先生は、Ⅰ国語科授業の根底に見いだされる問題、Ⅱ国語科授業過程の問題、Ⅲ国語科授業を精練していくための問題の三つに分けて論究をすすめられてゐる。

その内容は、次のように構成されている。

- Ⅰ 国語科授業への基底と志向
 - 一 国語愛・人間愛につちかう授業の探究
 - 二 考える力・考える態度を養う国語科教育
 - 三 国語科教育の目標と内容
 - 四 精確な国語科授業(論)の構築を

- 五 国語科指導内容の精髓の発見を
- 六 国語科教育課程改定への提言
- 七 国語科における授業研究の方法
- 八 国語科授業研究の主題と方法
- 九 国語科授業研究のために

Ⅱ 国語科授業過程の考究

- 一 学習集団づくりと教授Ⅱ学習過程
- 二 学習自覚にもとづく教授Ⅱ学習過程
- 三 新しい学力観に立つ学習集団づくり
- 四 学習集団化への基礎
- 五 自主性をめざすしつけ
- 六 「わかり方」と集団思考関連
- 七 制御力のよくきいた学力論
- 八 まず確かな国語学習構造観の把握を

Ⅲ 国語科授業の精練と創成

- 一 学習指導法改善の視点
 - 二 国語科学習指導に新風を
 - 三 国語科学習ノート
 - 四 国語教育と書写指導
 - 五 教師の話し方と発問の精進
 - 六 授業案づくりと発問の精選
 - 七 心に残ったひとつの発問
 - 八 授業への覚悟
 - 九 大村はま先生の国語教育
 - 十 教育(授業)内容の創造
 - 十一 国語科授業創造の呼吸
- 先生は、まず、精確な国語科授業の構築のために、国語科授業力の習得・修練の重要性を強調され、目標の把握・内容の組織・方法

の確立にかかわって、国語科授業力(国語科教材洞察力・透視力・産出力・学習者把握力、国語科授業構想力)がどのように機能するかを明らかにされている。また、授業の成立を教材・学習者・指導者の三極の作用からとらえられ、授業の構造を、目的・目標・内容・方法・評価というひとまとまりととしてとらえられ、授業把握の根本視点を明らかにされている。

先生は、次に、国語科授業過程の指定のために、これまでの教授・学習の理論を整理されつつ、さらに新しい探索を試みられていく。

たとえば、みずから学ぶ力を育てる教授・学習過程を構築していく土台として、学習者の学習自覚を確かめることの必要を、その具体例をあげて指摘されている。また、学習集団づくりの基本的な問題として、「ひとりしらべ」のリズムをつくることの重要性を指摘され、グループ学習・全体学習との有機的な関連の必要を強調されている。

先生は、さらに、国語科授業を精練するために、学習記録・語法・発問のあり方についても、清新な提案をなされている。

先生ご自身の「国語科授業探究の記録」である本書から、くみとらなければならぬ、国語科授業研究の課題は、あまりにも多い。昭和五一年六月一日、共文社刊、A五判、二三八ページ、二二〇〇円。(広瀬節夫)